

清流通信「四万十川物語」

第58章(平成13年11月10日)

送信者:高知県 四万十川流域振興室

Tel (088)823-9795 Fax(088)823-9296 E-mail shimanto@pref.kochi.jp

「四万十川の沈下橋をわたる風&千枚田」—かおり風景100選(環境省)—

清流通信の読者のみなさま、こんにちわ。四万十川でもずいぶん寒くなってまいりました。体調の維持に十分お気をつけください。

環境省は10月30日、心地よいかおりとその源となる自然や文化を保全・創出するため、かおり環境として特に優れた「かおり風景100選」を認定しました。高知県では、「四万十川の沈下橋をわたる風(流域8市町村)」と四万十川流域の「神在居の千枚田(梶原町)」の二地点が選ばれています。四万十川は、日本の名水100選にも認定されています。

かおり風景選定にあたっては、

- ・地元住民のみならず、訪問者にとっても楽しめるかおり風景であること、
- ・かおり風景に接することによって、地域住民や訪問者の憩いや安らぎを与え続けることができること、
- ・かおり風景としての「品格」を有し、保存する価値の高い地域であること、

などがポイントとして照らし合わされました。

二地点の「かおり風景」としての概要は次のとおりです。

-四万十川の沈下橋をわたる風-

四万十川の清らかな川面をゆらす風が、清流独特のかおりと河畔の緑の木や野辺にゆれる花のかおりとをミックスし、清流・四万十川にふさわしいかおりを沈下橋に運んでくる。また、水田の稲わらのかおりや火振り漁に用いる松明のかおりなども運んでくる。本川と支川には47の沈下橋がかかっており、周囲の自然や四季折々の景観とマッチしている。沈下橋保存方針などによる保全が行われ、沈下橋には国内で唯一有形文化財登録を受けたものがある。

-神在居(かんざいこ)の千枚田-

標高600mの山の斜面に築きあげられた「千枚田」は四季折々の花、田、水、土、風等の色々な香りの共演が楽しめる。農家の高齢化、後継者不足等で手入れができなくなった田をオーナー制で貸し出すことによって、年間約60人ほどが地元の人に米作りを習いに訪れており、その結果、景観が損なわれず昔のままの姿で見ることができる。「日本の棚田百選」に選定されている。

人々が活動する場は、活動を可能にし誘発するような様々な要素や力を潜在的にもっています。風景、音、におい、温度、光など直接五感に訴える要素。自然空間の広がりや時間のつながり、生き物、その場にいる人々、その人々が生み出した歴史・文化などの様々な要素。これらは、一体となって雰囲気・エネルギーを形成し、人々に「体感」や「共感」を提供します。

日本最後の清流と称される四万十川、その清流を育む流域の人と自然。かおり風景100選に認定された二つの「におい」を体感できる四万十川流域を大切に守っていきます。全国のみなさまのご支援をお願いいたします。

なお、認定書は11月12日、東京都千代田区イノホールにおいて川口環境大臣から授与される予定で、認定書授与式の後、かおり風景100選選定記念フォーラムが開催されます。

津野山神楽・津野山古式神楽

国の重要無形民俗文化財に指定されている神楽が10月下旬から11月中旬にかけて梶原町や東津野村の神社で奉納されています。津野山文化のシンボルとも云える勇壮な神楽をご覧くださいませ。

(問い合わせ)

梶原町役場:0889-65-1111(代)

東津野村役場:0889-62-2311(代)

【移転のお知らせ】

文化環境部・四万十川流域振興室は県庁北庁舎で業務を行っていますが、文化環境部が全て本庁舎4階に移転いたします。引っ越しは11月13日～14日にかけて行います。電話番号やファックス番号、E-mailアドレスなどには変更がありません。

(新所在地) ☎ 780-8570

高知市丸の内1丁目2-20